

The 48th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (ISPN) に参加して。

2022.12.6- 12.10 Singapore

奈良県立医科大学 脳神経外科

金 泰均

第 48 回 ISPN は本来 2020 年にシンガポールで開催される予定でしたが、コロナ禍のため virtual meeting を 2 回経て、ようやく 2022 年 12 月 6 日～12 月 10 日に現地開催となりました。以前から ISPN に参加している私としては久々の国際学会参加で、今回もフル参加させて頂きました。朴 永銖先生とともに、12 月 5 日に前日入りし、閉会翌日の 12 月 11 日に帰国するといった、ゆったりした日程でした。

シンガポール共和国は人口 585 万人程度の小さな島国ですが、非常に経済力が高く、また安全な国としても有名です。年中 30 度前後の熱帯雨林気候となる赤道直下に位置し、空港や施設内では冷房が効いていますが、一歩外に出ればじわっと汗ばむような暑さでした。ちょうど訪れた 12 月は雨季 (11 月～2 月) にあたり、昼過ぎには突然スコールが降って驚かされました。公用語は英語、マレー語、中国語、タミル語と多いですが、大抵は英語で会話が通じ、どこでも丁寧に対応してくれる人ばかりでした。物価は日本より 1.5～2 倍ほど高い印象がありましたが、公共交通機関による交通費は少し安いかわりでした。



写真 1 会場の Sands Expo & Convention Centre と会場前の Marina Bay Sands Hotel



写真 2 会場からみたシンガポールの高層ビル群



写真 3 シンガポール観光のシンボルとも言えるマーライオン



写真 4 シンガポールの代表的料理の Laksa (手前) とチキンライス (奥)

さて、今回は National Neuroscience Institute (NNI) Singapore の Seow Wan Tew 先生が会長をされ、会場の Sands Expo & Convention Centre は、かの有名な、屋上に船が乗っている Marina Bay Sands Hotel の目の前にあ

ります。日本でも大きい convention center がありますが、やや殺風景の日本のそれとは違い、一面絨毯と大きなシャンデリアで飾られ、広く煌びやかな会場でした。発表会場はメインの Hall A とやや狭めの Hall B に分かれ、機器展示、Poster ブースはさらに別 Hall が用意されておりました。Invited Lecture 8 演題、Oral presentation 177 演題、Poster presentation 193 演題と非常に盛り沢山の内容となっておりましたが、今年は例年より欧米の先生が多く、(国家情勢のためか) 中国やロシアの先生は見かけませんでした。日本からは 12 人参加し、今回の私が最年少の参加者となりました。



写真 5 Hall A



写真 6 Hall B

ISPN の本格的な発表は 12 月 7 日から始まり、12 月 6 日は Pre-Congress Symposium が催され、主に脳腫瘍を扱った教育的セッションとなっておりました。小児脳腫瘍の主な遺伝子背景から、Medulloblastoma の総論、Diffuse intrinsic pontine glioma (DIPG) の総論、Germ cell tumor (GCT)、non-GCT の化学放射線治療成績などが講演されました。Symposium のあとは Welcome reception がありましたが、開始まで時間がありましたので、シンガポールの街並みを少し観光し、マーライオンにも挨拶して参りました。Welcome reception では、シンガポールで代表的な Laksa (香辛料が効いた麺) とチキンライスが振る舞われ、美味でした。

初日の 12 月 7 日は、Oncology session が朝から昼過ぎまで続き、世界的にはやはり腫瘍学への関心が最も高い印象を受けました。発表は Oral presentation が質疑含めて 8 分、Flash oral presentation が 3 分と短く、進行も tight でしたので、発表が少し速く、演者の先生方は少し物足りないような面持ちでしたが、端的にまとめられておりました。GCT、DIPG、頭蓋咽頭腫、High Grade Glioma (HGG) の基礎研究から松果体部腫瘍、Optic pathway glioma、後頭蓋腫瘍の治療成績など、内容は多岐に渡っておりました。一部、分子標的薬が登場し有効性を提示しておりましたが、まだ治験段階中でした。午後からは Vascular session (主にもやもや病と脳動静脈奇形の治療成績) と Skeletal Dysplasia session が夕方まで行われ、非常に濃密な初日でした。さらに、この日は Poster session 1 もあり、私も「水頭症をきたした巨大脳瘤の 1 例」を発表させて頂きました。

12 月 8 日は午前中のみで Dysraphism/Congenital session と Spine session の 2 本立てでした。前半は、主に脊髄髄膜瘤 (Myelomeningocele; MMC) の総論や、脊髄脂肪腫、脊髄係留例の治療工夫についてでしたが、今年も MMC 胎児手術についての演題がありました。開腹で行った従来の Management of Meningocele Study (MOMS) に対し、内視鏡を用いた MMC 修復 (Fetoscopic repair) 300 例を比較検討したものでした。手術侵襲が低く、術後の運動機能や水頭症発症の改善率に差異がない反面、創部離開や髄液漏が生じやすい結果となり、今後も課題が残る治療法と結論しておりました。後半は、小児脊髄手術における読影術や monitoring、固定術に関する発表があって 2 日目が終了しました。午後からは free afternoon でしたので、以前から親交があります韓国の Seoul National University children's hospital と Severance children's hospital の先生方と食事会をしました。同年代の先生もおられ、いろいろお話ができて良い機会でした。



写真7 Poster Sessionで発表(直前)



写真8 Coffee Breakの1枚

12月9日は、唯一Hall AとHall Bに別れ、Hall AではGlobal Neurosurgery sessionとCraniofacial sessionが、Hall BではHydrocephalus/Chiari sessionとTrauma/Critical Care sessionが開かれました。Hall Aでは世界各国から各々の小児神経外科学の実状や代表症例を発表されました。Hall Bは身近かつ臨床的な内容だったためか、やや小さめの会場でしたが、会場の外まで人が溢れるような状態でした。この日は、Trauma sessionで朴先生のご発表もあり、軽微な頭部外傷でも硬膜下血腫が生じ、乳幼児虐待との鑑別の難しさと重要性を説かれました。Lunch symposiumでは、関西医科大学の埜中 正博先生が小児水頭症の治療についてご発表されました。夕方にはPoster session 2とBusiness meetingが行われたのち、いよいよISPN恒例のGala dinnerが開催されました。家族も参加可能なため、広い会場に約300席用意され、中華をベースとしたフルコースが提供されました。お酒も入り、皆さん上機嫌に交流を深めていました。このとき、神経線維腫症のない小児聴神経腫瘍の手術報告に関する論文でRaimondi Awardを受賞し、本会に招待された東京医科大学脳神経外科の松島 健先生がちょうど来場され、挨拶とともに食事もご一緒しました。非常に気さくな先生で、楽しいひとときを過ごしました。



写真9 壇上の奈良医大 朴先生



写真10 Gala Dinnerでの1枚

12月10日は午前中のみで、Raimondi Awardの松島先生がご発表されたあと、Epilepsy/Functional sessionで締め括られました。薬剤抵抗性のfocal cortical dysplasiaをもった小児てんかん例の手術成績や、術中マッピング



写真 11 Seow Wan Tew 先生（左）と Sergio Valenzuela 先生（右）

についての発表があり、その後は脳性麻痺例に対する Selective dorsal rhizotomy について発表がありました。

最後は、次回 ISPN 2023 が開催されるチリの現地紹介と次期会長の Sergio Valenzuela 先生のご挨拶が行われ、本会が終了しました。2024 年はカナダのトロント、2025 年はフランスのリヨンで開催され、遠方への参加が続きますが、本稿では記述しきれなかった現地開催ならではの交流と情熱、世界のトレンドを見聞きできる貴重な機会だと思いますので、今後も積極的に参加していきたいと考えております。また、ぜひ同年代や若い先生方ともご一緒できることも楽しみにしております。